

第22回市民協働指針検討委員会 議事録

日 時	平成19年11月1日（木） 18：45～21：00
場 所	第1委員会室
出席者	委 員 久保 純一、泉谷 清、鎌倉 洲夫 富塚 広、吉田 愛子、松本 史典 恵庭市 企画財政部長 斉藤英治、次長 北林剛、広報広聴課 吉田真俊
部長挨拶：	<p>22回にわたり真剣に議論していただきありがとうございました。市としても指針を基に今後のまちづくりに、具体的にどうつなげていくかを考えていかなければならないと思っています。</p> <p>市では、行政と市民と専門家を加えた組織を立ち上げ、今後の恵庭市の方向性を明確にしていくため、事業仕分けや行政評価の手法を加えて検討していくことを考えており、これまでの指針検討の経験を活かして皆さんにも加わっていただければと考えているので、よろしくをお願いします。</p> <p>今日でこの会議は終了しますが、今後とも行政に対するご支援をお願いします。</p>
事務局：	前回会議の修正を加えた内容にその後個別にいただいた意見を事務局で反映した原案最終を確認していきます。
委員長：	前回会議の修正部分を確認していく。
委員：	指針の表題に「相互理解」が入るか。入るとすれば本文中へ「相互理解」の章立て、説明が必要ではないか。 表紙に恵庭市の表示がない。
委員長：	表紙については特段協議していないが、「相互理解」は無いほうがはっきりしている。
事務局：	表題を「市民と行政の協働のまちづくり指針」とします。「恵庭市」の表示については、指針案となる時点で「企画財政部広報広聴課」を「恵庭市」と表示する。
事務局：	2ページ「現在のまちづくり」上から3行目”また”をとり、4行目“また、希薄化した・・・”としている。
委員：	“町内会や・・・主体となって”を主語として段落の頭に持ってくればわかりやすい。
委員長：	“防災など・・・”があつて、後段で“自主防災組織の・・・”が出てきて、“また”でつながっている。
委員：	“防災など・・・”を“子育てなど・・・”とすれば読みやすい。
事務局：	意見のとおり修正する。 3ページ「いまなぜ協働が必要か」は“地方では”、“国では”、“一方で”となっていたが、“国では”、“地方では”、“一方で”の記載順に修正した。

鎌倉委員： 下から5行目“こうした・・・”で段落を入れたほうがいい。

委員長： 修正で流れはよくなった。

事務局： 7ページ1行目“協働の考え方と課題を踏まえ、・・・”を“協働の考え方と課題を理解し、・・・”に修正している。

委員： “理解し”は強い言い方なので“理解して”とすれば、すこしやわらかくなる。

委員： “協働の考え方”は“協働のまちづくりの考え方”としたほうがいい。

事務局： “協働のまちづくりの考え方を理解して、・・・”に修正する。

委員： 7ページ④“・・・を持ち、まちづくりへの・・・”を“・・・を持ち、これをまちづくりへの・・・”に修正すべき。

事務局： 12ページ「おわりに」は、段落2の3行“市民と市民がつながり・・・なのです。”を加えている。
3行目“市民と行政・議会がつながり・・・”となっているが、本文中では議会が入ってきていない。このページ9行目の議会は一般論としての表示ではあるが、整合性をとるべきと考えている。

委員： 当然議会はまちづくりを担う重要な要素ではあるが、協働の相手側として議会を取り上げるのは難しい。市民と行政が協力してやっというのがこの指針の基本的な考え方だ。

委員： 「おわりに」は願いを書いたものであるから、議会も一緒に協働のまちづくりをということから、3行目“市民と行政・議会がつながり・・・”はそのままよいと考える。

委員長： 3行目“市民と行政・議会がつながり・・・”を“市民と行政がつながり・・・”に修正する。

事務局： 1行目“・・・それぞれの役割を担ってきました。”と10行目“・・・その役割を担って・・・”が重複した説明になっているのではないか。

委員長： 1行目2行目を削除し、8行目から4行を頭に持ってきてはいかがか。

事務局： その場合、7行目最後の“・・・創り出していきます。”を受けての最後2行の“その第1歩として・・・”となってしまいが。

吉田委員： 最後2行の“その第1歩として・・・”の文書を強調するなどして別物としては。

委員長： 詩の部分の最後に持ってくる方がいいのではないか。

事務局： 修正する。
以上の修正を加えて指針案とし、12月議会総文への説明をしていく。